

特別勘定クォーターリーレポート

スイス年金

新変額個人年金保険(無配当)

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

参考 主な投資対象の投資信託の運用状況(出所: アパディーン投信投資顧問株式会社)

世界バランス・ファンド(適格機関投資家専用)

■ 基準価額の騰落率

	1か月	3か月	6か月	1年	3年
世界バランス・ファンド	▲3.01%	▲0.88%	▲2.90%	9.67%	67.26%

■ 資産別構成比

	ファンド	複合指数 (参考データ)	ベット
株 式	49.79%	50.00%	-0.21%
北米地域	30.11%	30.62%	-0.50%
欧州(除く英国)	9.00%	8.75%	0.24%
英国	3.52%	3.93%	-0.41%
日本	5.13%	4.44%	0.69%
香港・シンガポール	0.56%	0.91%	-0.35%
豪州・ニュージーランド	1.48%	1.36%	0.12%
債 券	49.71%	50.00%	-0.29%
米ドル圏	18.99%	18.99%	0.00%
欧州(除く英国)	16.84%	16.68%	0.16%
英国	3.35%	3.37%	-0.02%
日本	10.52%	10.96%	-0.44%
現 預 金	0.50%	0.00%	0.50%
合 計	100.00%	100.00%	0.00%

■ 通貨別構成比

	ファンド	複合指数 (参考データ)
米ドル圏	50.72%	49.86%
ユーロ圏	22.54%	23.52%
イギリスポンド	7.11%	7.30%
豪ドル(含NZD)	2.09%	2.01%
スイス・フラン	1.66%	1.91%
日本円	15.88%	15.40%
合計	100.0%	100.0%

* 複合指数はMSCI Worldインデックスの50%、シティ世界国債インデックスの50%を加重平均した指数

特別勘定の名称

グローバルマーケット型

主な運用対象の投資信託

世界バランス・ファンド
(適格機関投資家専用)

投資信託の運用会社

アパディーン投信投資顧問株式会社

ユニット・プライスの騰落率

	1か月	3か月	6か月	1年	3年	設定来
	▲2.96%	▲1.10%	▲3.31%	8.05%	59.34%	55.91%

特別勘定資産内訳

	構成比(%)
現 預 金	4.4%
投 資	95.6%
合 計	100.0%

■ 上位10銘柄

(総組入れ銘柄数 161)

株式	国名	業種	投資比率
CVS HEALTH CORP	アメリカ	生活必需品	2.23%
BRITISH AMERICAN TOBACCO PLC	イギリス	生活必需品	2.00%
NOVARTIS AG	スイス	ヘルスケア	2.00%
EOG RESOURCES INC	アメリカ	エネルギー	1.92%
ORACLE CORP	アメリカ	情報技術	1.90%
ROCHE HLDG AG	スイス	ヘルスケア	1.88%
ROYAL DUTCH SHELL PLC	イギリス	エネルギー	1.62%
PEPSICO INC	アメリカ	生活必需品	1.42%
JOHNSON & JOHNSON	アメリカ	ヘルスケア	1.42%
UNITED TECHNOLOGIES CORP	アメリカ	資本財・サービス	1.40%
合計			17.80%

債券	クーポン	償還日	投資比率
アメリカ国債	0.625	2016/11/15	2.81%
オーストラリア国債	4.500	2020/04/15	2.26%
アメリカ国債	1.250	2020/01/31	1.32%
スペイン国債	4.800	2024/01/31	1.28%
アメリカ国債	3.750	2043/11/15	0.88%
ドイツ国債	1.500	2024/05/15	0.87%
イタリア国債	3.750	2024/09/01	0.75%
メキシコ国債	10.000	2024/12/05	0.69%
ドイツ国債	4.250	2018/07/04	0.68%
スウェーデン国債	2.500	2025/05/12	0.65%
合計			12.19%

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、3/3ページの「ご注意いただきたい事項」等を必ずご参照ください。

■運用コメント

市場概況

・日本株式

(4月)国内企業の業績回復に対する期待感や日銀が景気回復を確実なものとするため、追加の金融緩和を実施するとの見方が強まり続伸しました。
(5月)円安・ドル高の進行を受けて買い優勢の展開となり、日経平均株価が月末にかけて27年ぶりに11連騰を記録するなど続伸しました。
(6月)日経平均株価は月間ベースでは6カ月ぶりに反落しました。

・日本債券

(4月)期初の売り買いが交錯する中、景況感の改善ペースの鈍さや物価見通しの弱さをサポート要因に徐々に買い優勢の展開となりました。
(5月)ドイツ10年債など欧州債利回りが急上昇したことや、それに伴う米国債利回りの上昇を嫌気しました。
(6月)海外金利の上昇を受けて、10日には10年国債利回りが0.5%を上回り半年ぶりの高水準となるなど、利回りは上昇する展開となりました。

・外国株式

(4月)米国の1-3月期国内総生産(GDP)速報値が予想を下回る小幅なプラス成長にとどまり、米国は僅かながらの上昇、ユーロ圏はドイツを筆頭に下落しました。
(5月)総選挙で保守党が勝利した英国や雇用者増加数が20万人超を回復した米国がやや上昇、ユーロ圏やエマージング諸国では下落しました。
(6月)ユーロ圏でのギリシャ支援協議の迷走等から世界的に下落しました。

・外国債券

(4月)欧州で月央に大きく利回りが低下した反動から、月末にかけては前月末を上回る水準へと急上昇になりました。
(5月)欧州中央銀行(ECB)が5、6月にかけて国債買い入れペースをやや引き上げるとしたことで世界的に月央から利回りが低下しましたが、月末には前月末をやや上回る利回り水準となりました。
(6月)ドラギECB総裁が量的緩和の完全実施を表明しつつも、金利水準の変動を容認したこと等から世界的に利回りが上昇しました。

・為替

(4月)米公開市場委員会(FOMC)後の声明で米国景気の減速が指摘され、米ドルは対円ではほぼ変わらず、対ユーロや英ポンドでは3月の上昇分がほぼ消滅しました。
(5月)円は全面安となり、米国での年内利上げが意識された米ドルが上昇しました。
(6月)黒田日銀総裁が125円超の円安を牽制するなど対ドルで円高に転じ、ユーロはほぼ全面高となりました。

運用概況

・今四半期(2015年4月～6月)のファンドのパフォーマンスは、基準価額ベースで-0.88%となりました。月別に見ると4月が+0.37%、5月が+1.83%、6月が-3.01%となります。円安が進んだことはプラスに寄りましたが、株式および債券相場が軟調に推移したため、基準価額はやや下落しました。
・今四半期のパフォーマンスは、ベンチマークを下回りました。その主なマイナス要因となった銘柄選択効果は、株式部門ではほぼ全地域で市場のリターンに劣後し、債券部門では米国において金利の上昇局面で事業債等への投資がマイナスとなりました。資産および地域配分効果において、株式・債券ともベンチマーク対比の寄与度は限定的でした。為替は、米ドルへのオーバーウェイトがややマイナス寄与となりました。
・今四半期の資産配分については、期初から僅かに株式のオーバーウェイト、債券のアンダーウェイトを基準とし、期中での変更はありませんでした。株式については、引き続き日本をオーバーウェイトする一方、景気の見通しに応じて英国のウェイト付けを調整しました。新興国市場にも引き続き投資しています。債券については、現預金相当分も含め日本のアンダーウェイトを継続し、期中には欧州(除く英国)への配分を中立に戻し、概ね海外では中立的な配分としました。為替に関しては米ドルのオーバーウェイトを継続し、その幅を他通貨の見通しに応じて調整しました。

運用方針

・株式市場は米国を中心に高値を更新する展開が続いており、各国とも相場にやや過熱感があるものの超金融緩和局面からの転換も視野に入り始めること等から、資産区分としてはわずかに株式をオーバーウェイト、債券をアンダーウェイトとする予定です。
・株式については日本のオーバーウェイトを継続し、欧州をわずかにオーバーウェイトとする一方、景気の先行き不透明感から英国や香港・シンガポールをアンダーウェイトとする方針です。
・債券については、現預金相当分も含め日本のアンダーウェイトを継続とし、他の国や地域については中立とする方針です。
・為替に関しては、対ユーロでのドル高を見込んだ米ドルのオーバーウェイトを継続しますが、その幅はやや引き下げる方針です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、3/3ページの「ご注意いただきたい事項」等を必ずご参照ください。

当資料はアクサ生命が新変額個人年金保険「スイス年金」の特別勘定について運用状況などを報告する資料です

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の据置(運用)期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡給付金額および解約払戻金額等が変動(増減)します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。

保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、死亡給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

契約初期費	一時払保険料に対して 5.0% を特別勘定繰入前に控除します。
保険関係費	特別勘定の資産総額に対して(年率 0.75% +運用実績に応じた費用 ^(※))/365日を毎日控除します。 ※運用実績に応じた費用:運用実績を毎日判定し、実績が 年率1.5%を超過した場合のみ、超過分1%あたり0.1%(上限1.25%) を控除します。
年金管理費	年金支払開始日以後、支払年金額の 1% を年金支払日に控除します。
資産運用関係費	グローバルマーケット型 年率0.7344%程度

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご留意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「スイス年金」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「スイス年金」には「特別勘定グループ(TS型)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(TS型)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(TS型)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険(無配当)「スイス年金」は現在販売しておりません。

[募集代理店]

株式会社東京スター銀行



東京スター銀行

0120-330-655

(平日 9:00~21:00 土日祝 9:00~17:00 年末・年始を除く)

ホームページ / <http://www.tokyostarbank.co.jp>

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

TEL 0120-933-399

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/>